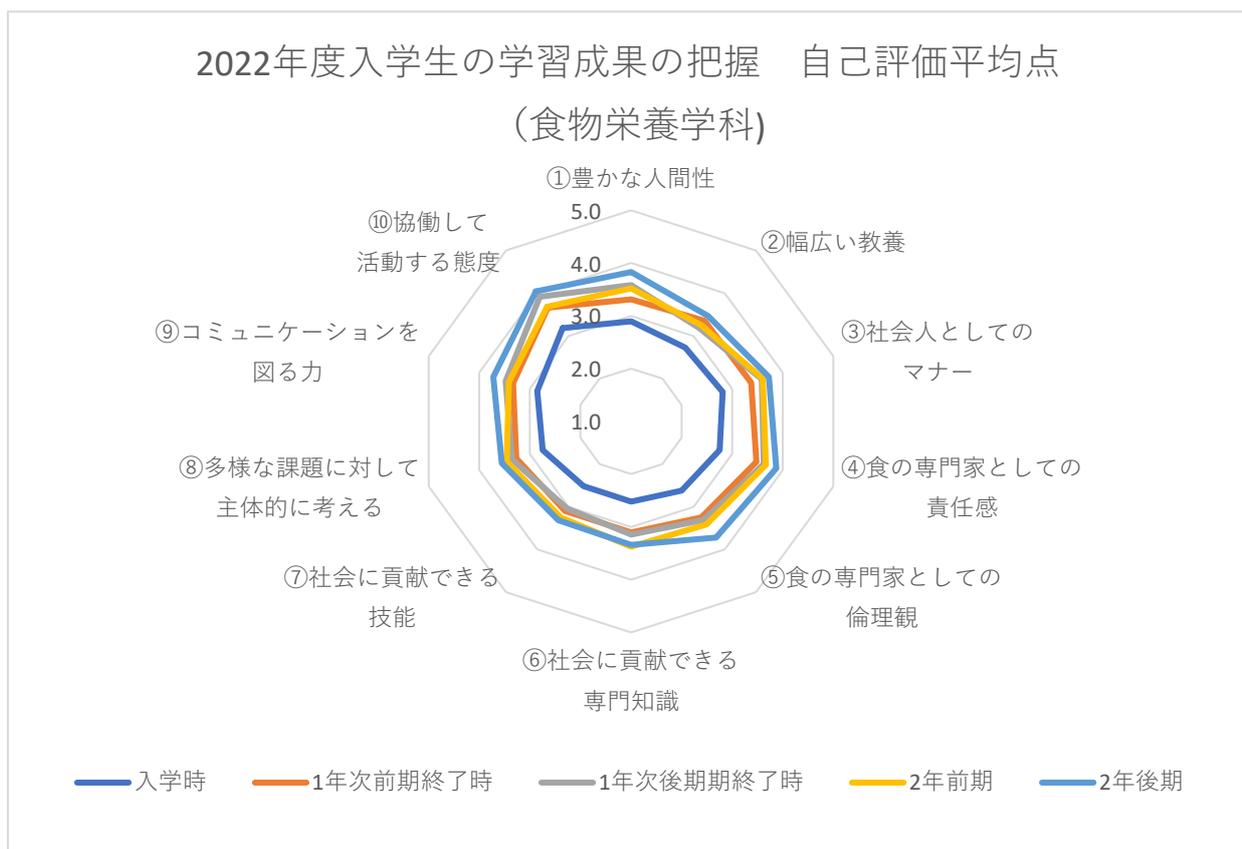
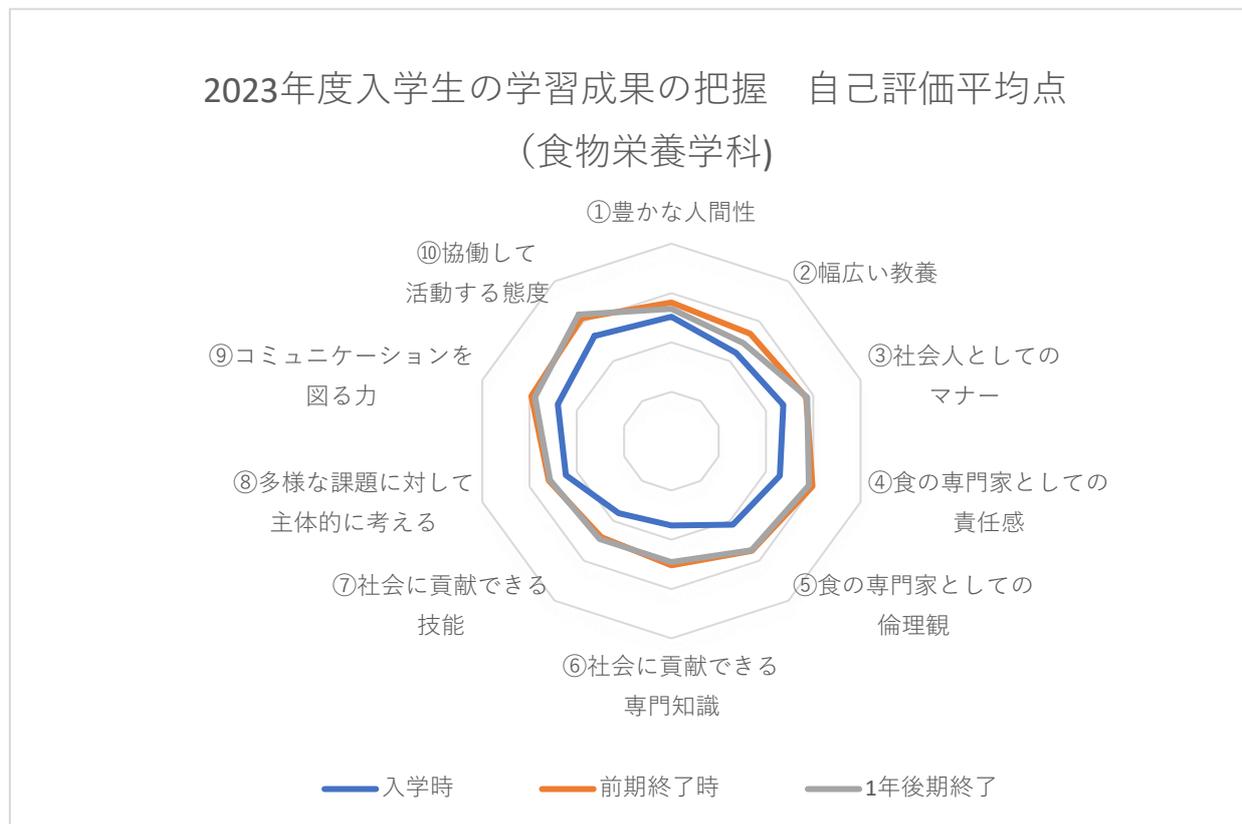


学生の学習成果の把握

「卒業の認定に関する方針」(ディプロマポリシー)に定められた学修目標の達成状況を自己評価する。実施時期ごとの結果を入学年度の学生全体の平均点として示す。



方法：「卒業の認定に関する方針」（ディプロマポリシー）に定められた学修目標の達成状況を自己評価する。

標記：実施時期ごとの結果を入学年度の学生全体の平均点として示す。

調査時期：2023年9月 2024年2月

調査対象：全学生

回答率：100%

調査方法：WEB調査

- 評価：1. 「⑥社会に貢献できる専門知識」、「⑦社会に貢献できる技能」が両学年とも入学時1番低かったが、学年の経過とともに伸びが大きい。
2. 「①豊かな人間性」、「②幅広い教養」は、2023年度入学性は2022年度入学生と比べて高い値となっている。今後とも社会貢献、ボランティア等で、社会と関わり、経験を積み、豊かな人間性を培っていくこと、知性と感性を磨いていくことが必要。
3. 「④食の専門家としての責任感」、「⑩協働して活動する態度」が卒業時、1番高い値となっている。クラスメイト等との対話的な学習の過程で学んだ態度を、食の専門家として責任感を持って更に身につけていくことが必要。